

有機栽培を基本とした農地所有適格法人

（宇佐オーガニックファーム株式会社）

＜法人の概要＞

所在地：大分県宇佐市

設立：平成 22 年 4 月

資本金：100 万円 売上高：16,900 万円（令和 2 年）

構成員（議決権）：農業関係者（51%）、日本薬品開発株式会社（49%）

役員：2 名（うち農作業従事 2 名）

経営面積：2.6ha

作付作物：大麦若葉、米、麦



大麦若葉



大麦若葉の収穫作業

＜営農を開始するまでの状況＞

宇佐オーガニックファーム株式会社は、有機栽培の実践を目的の一つとして設立した農業法人であり、主な栽培作物である有機大麦若葉は、構成員でもある日本薬品開発株式会社へ健康食品の原料として販売している。また、米等もそのほとんどを有機栽培で生産しており、主にオーガニック関連の食品店や個人消費者等へ直接販売している。

農業参入は、宇佐市の農地リース事業を利用して同市安心院町の耕作放棄地を借り受けることからスタートした。その後も安心院町を中心に地権者との直接的な賃貸借を含め耕作放棄地等を整備しながら圃場の拡張を行ってきた。

法人化に当たっては、主力生産品の大麦若葉が全量契約栽培であり、価格も安定していることから経営計画は比較的立てやすかった。しかし、栽培用地の確保は耕作放棄地を整備するところから始めなければならず、かなりの時間とコストを費やしたところである。

＜特徴的な取組＞

主力生産品の有機大麦若葉はそのほとんどを日本薬品開発株式会社へ販売しているが、同社の販売が国内外へ及ぶことより、国内の有機JASを始め米国や欧州の制度における有機認証の取得に取り組んできた。現在では経営圃場のほとんどが上記いずれかの有機認証を取得している。特に海外の食品業界では有機原料の需要が高いが、近年国内においても安心、安全な農産品を求める動きから有機原料の要求も高まってきており、この傾向は今後も続くものと見込まれる。

また、米も同様に有機栽培品を求める声が多くなってきている。慣行品と比べ手間とコストは増加するが市場における付加価値は高く、店舗や消費者と直結することにより採算の取れる作物となっている。

その他、味噌や漬物、麦焼酎等の加工食品を販売しているが、原料となる米、麦、大豆、野菜等はすべて自社にて有機栽培を行っていることを商品の特徴としており、加工は地元の食品加工業者の協力を得て製品化している。地元で栽培し、地元で加工して製品化することにより、より地元色の強い商品としてアピールすることができる。

今後は同様に自社栽培品を主原料とした菓子や麺類の商品開発を計画している。

＜今後の農業経営の展開方向＞

今後も有機栽培を基本として経営面積の拡張を計画している。特に有機大麦若葉および有機米の需要は高まる見込であり、それに応じた栽培圃場の確保が課題となる。ただし、有機栽培品として市場に出すにはその栽培圃場に対して最低でも2年間の有機管理の実績が必要であることから、先の需要を見込んだ計画を立てることが重要となる。

栽培圃場の確保に関しては、これまで同様に耕作放棄地や遊休農地の整備を積極的に行っていきたい。栽培作物に関しては今後も受託生産を基本として品目や取引量を広げて行き、できるだけ収支の見通せる経営を目指してまいりたい。



耕作放棄地の整備事例